

授業科目(ナンバリング)	臨床薬物代謝学 (NE324)			担当教員	梶島 力・一木 裕子		
展開方法	講義	単位数	1.5 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
本講義では、薬物の体内動態の中でも薬物代謝を中心として、基礎的な動態解析法（コンパートメントモデルやクリアランス）から、治療薬物モニタリング（TDM）に基づく臨床的な投与設計にいたるまでを理解することを目的とする。この薬物代謝に関する基礎から応用までを理解することによって、卒業後に臨床現場において、薬の専門家として安全な薬物治療計画に参画できるための知識を身につける。							①⑧⑨
	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	(1)薬物代謝酵素について説明できる。(2)薬物代謝に影響を及ぼす因子について説明できる。(3)薬物代謝における化学反応を説明できる。(4)TDMの意義や測定法について説明できる。(5)薬物の投与設計ができる。				定期試験 確認試験		80% 20%
情報収集、 分析力							
コミュニケーション力							
協働・課題解決力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
確認試験を20%、定期試験を80%とし、記述式による筆記試験を行う。なお確認試験に関するフィードバックは、授業内で随時行っていく。薬物代謝酵素、薬物代謝へ影響を及ぼす因子、TDMなど、これらの理解度について評価する。							
授業の概要							
<p>薬物動態の吸収・分布・代謝・排泄の代謝過程について、薬物代謝酵素を中心に、酵素反応、遺伝子多型、代謝に及ぼす因子（年齢、性別など）、クリアランスなどについて講義する。また、病院薬剤師としての経験を基に、具体的な薬物のTDMとその情報に基づく薬物投与計画の立て方について講義を行う。</p> <p>基本的には教科書を中心に、必要に応じてプリント等の資料を配布し、パワーポイントを利用する。また授業に参加してもらうために適宜質問を行う。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、112.5分です。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：臨床薬物動態学（第5版）加藤隆一、家入一郎、楠原洋之（南江堂）</p> <p>参考書：コンパス薬物速度論演習 岩城正宏（南江堂）</p> <p>指定図書：臨床薬物動態学（第5版）加藤隆一、家入一郎、楠原洋之（南江堂）</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本科目は4年前期の薬物動態学に続くものなので、授業内容をしっかりと理解しておくこと。そのため、予習・復習を行い、不明な点は積極的に質問してください。卒業後に、臨床薬物代謝学の知識を応用し、個々の患者に適した薬物治療（薬物投与計画）ができる薬剤師になって欲しい。</p> <p>※質問は、基本的に在室中は可能ですので、担当教員のオフィス（薬学研究棟 P303 梶島、P312 一木）を訪ねてください。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習	到達目標番号*
1	薬物動態解析 1	生理学的薬物速度論モデル、コンパートメントモデル (梶島)	教科書 P1-27 を予習しておく	839
2	薬物動態解析 2	クリアランス、バイオアベイラビリティ、薬物のタンパク結合 (梶島)	教科書 P27-48 を予習しておく	843
3	薬物の吸収	生体膜透過、消化管吸収、初回通過効果、トランスポーター、皮膚や粘膜からの吸収 (梶島)	教科書 P49-92 を予習しておく	816, 817, 822
4	薬物代謝酵素 1	薬物の酸化・還元・加水分解・抱合 (梶島)	教科書 P93-104 を予習しておく	829-832
5	薬物代謝酵素 2	薬物代謝酵素の誘導と阻害、活性に影響を及ぼす因子 (梶島)	教科書 P105-111 を予習しておく	833
6	薬物の排泄	尿中排泄、胆汁中排泄、消化管分泌 (梶島)	教科書 P113-127 を予習しておく	837
7	薬物動態の個人差・人種差	代謝能の個人差・人種差、代謝能の個人差と有害反応発現の要因 (梶島)	教科書 P129-138 を予習しておく	803-805
8	遺伝的素因	代謝酵素の遺伝子多型、トランスポーターの遺伝子多型 (梶島)	教科書 P139-183 を予習しておく	803-805
9	薬物相互作用	代謝および吸収過程における薬物相互作用 (一木)	教科書 P185-238 を予習しておく	821, 833
10	生活習慣と薬物動態	薬物動態における栄養・運動・睡眠などの影響 (一木)	教科書 P239-252 を予習しておく	813
11	年齢と薬物動態	新生児・乳児・幼児・小児・高齢者における薬物動態 (一木)	教科書 P253-274 を予習しておく	806, 807
12	性別と薬物動態	薬物動態の性差、妊娠時における薬物動態、胎児・母乳への薬物の移行 (一木)	教科書 P15-292 を予習しておく	811, 812
13	病態下における薬物動態 1	肝疾患・循環器疾患・呼吸器疾患時における薬物動態 (一木)	教科書 P293-315 を予習しておく	809
14	病態下における薬物動態 2	腎疾患・内分泌疾患・癌・炎症性疾患時における薬物動態 (一木)	教科書 P315-344 を予習しておく	808
15	TDM に基づく投与設計	TDM、クレアチニンクレアランス、母集団薬物動態解析 (一木)	教科書 P361-367 を予習しておく	845-848
16	定期試験	筆記試験		

注) 上記の第 1 回～第 15 回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。

\* 到達目標番号と到達目標の対応は、巻末のコアカリ SB0 番号/項目対応表を参照して下さい。